

# 3 クライアントの戦略から考えるのが私の仕事

デザインとは自分の生き方そのもの



**カルチュア・コンビニエンス・クラブ (C.C.C.) 本社オフィス エントランスホール**  
アート作品に彩られた空間が、訪れた人やスタッフのクリエイティビティを刺激する。



**やよい歯科医院 診療室** 手渡し和紙と自然光に柔らかく包まれ、受診者の不安や緊張を軽減する。



**C.C.C. 本社オフィス オフィスダイニング**  
これが社員食堂？ 本棚とアートを配し、厨房は隠して、自由な活動を可能にした。

## 企業の理念をオフィス空間で表現する

私は、まだインテリアデザインという概念が広く知られていなかった1970年代に、個人でデザイン事務所を立ち上げて活動してきました。その中で目標として来たのは小粒でも大きな仕事を動かす「小さな巨人になる」ということ。ただものをつくるのではなく、クライアントが今後どこを目指すか、どうしたらより発展していくかといった戦略まで考えるのがデザインだと思っています。オフィスデザインなら、そこで働くスタッフの創造性を刺激してモチベーションを上げたり、訪れる人が感服して商談機会につながるデザインを考えます。

渋谷区にあるカルチュア・コンビニエンス・クラブ本社オフィスもそのひとつ。TSUTAYAを展開している同社のエントランスロビーでは、本棚をベースに照明とアートをちりばめて訪問者を迎え入れます。社員食堂は、お客様との打ち合わせや会議などにも対応できる多目的空間になっています。

オフィスの空間というのは、その企業の理念やセンスを表現する媒体であると考えています。例えば、エントランスからプレザンルームの間にアートを配する心遣いに、外部から来たお客様がこの会社はこんなにセンス

があるのかと感じたり、空間が備えた機能やインテリアを見て、そこで働くスタッフに配慮をしている会社なのかと感心をするでしょう。このような企業のイメージアップに繋がる戦略を含めて考えるのが私のスタイルです。

## インテリアデザインはここまでできる

オフィスでも病院でも、空間デザインを取り入れた事による効果を見出さなければなりません。歯科医院の場合は、ドクターと患者さんとの信頼関係を結ぶにはどうすればいいかを考えます。また、患者さんの不安な気持ちを解消するため、治療に使われる器具などはなるべく目に触れないような収納方法にしたり、待合室にヒーリングアートを配するなど、待合から診療室まで、患者さんにとって癒しの空間となるように目指します。

## 人のため、社会のために貢献できるものをつくりたい

お客様に喜んでいただくのはプロだったら当たり前。その上で、自分が納得できるもの～人が中心のものづくり、社会のために貢献できるもの～をつくるのが目標です。依頼した人のために、妥協せず良いものを追求する、信念を貫いてどこまで追求するかは、デザイナーとしての生き方そのものです。だからこそ、自分が納得する仕事をやり遂げることが、

## 原兆英さん

インテリアプランナー、  
インテリアデザイナー  
ジョイントセンター株式会社代表取締役



### 《経歴》

1971年、インテリアデザイン事務所として、ジョイントセンターを設立。商業施設、オフィス、住宅、医療施設など多岐にわたるワークフィールドを持ちながら、グラフィックデザインやプロダクトデザインまで幅広く手掛ける。2015年4月、これまでのデザインの集大成ともいえる作品集『ジョイントセンターの空間デザイン』を六曜社より出版。

### 《実績》

- ・ショップ1/2 (1972)
- ・プラステンシー (1983)
- ・原宿デジタルオフィス (2007)
- ・白金台の家 (2009)
- ・理化学研究所 AI Lab (2010)
- ・庭を囲む家 (2012)
- ・佐藤卓デザイン事務所 (2012)
- ・アマナ T3ビル5F (2015)

ほか多数

### 《受賞歴》

- ・日本産業振興会グッドデザイン賞 (2002、2005)
- ・インテリアプランニングアワード入選 (2010)
- ・インテリアプランニングアワード優秀賞 (2012)
- ・第8回スペースデザインコンテストグランプリ (2012)
- ・インテリアプランニングアワード入選 (2014)

ほか多数

実は一番難しい。現場では反省が先に立ちますが、計算外のプラス効果を発見すると嬉しいですね。

## 今を大事に、自分を磨いていこう

良いものをつくりたいと思うなら常に自分を磨くことが必要です。今を大事に、己を磨く努力をすれば、明日はもっといいものが出て来るでしょう。インテリアプランナー協会には、先輩達の生の声で仕事の進め方に関する情報交換をしたり、助言を受けたりするチャンスがたくさんあります。それを積極的に活用し、己を磨いてほしいと思います。